

「学校教育目標」と「令和6年度重点目標」に向けて

校訓 協和 誠実 努力 **教育目標** 自ら進んで道を切り拓き、自己実現をめざす生徒
教育方針 ・共に伸びることをめざし、相手の立場を考え、実践する生徒の育成
 ・徳性を高め、社会の成員としての自覚をもち、真摯に生きる生徒の育成
 ・自らの可能性を信じ、より高い自己を求め、努力する生徒の育成

重点目標 自ら道を切り拓く力の育成
 —言語活動の推進・人権教育の充実・健康安全教育の推進—

豊かな人間性

- ・先を見通した言動がとれる心を育む。
- ・互いに認め合い、高め合うなかまづくり。

健康・体力

- ・主体的に、健康を保持・増進しようとする態度を養う。
- ・事故や災害を未然に防いだり、被害を最小限にしようとしていく態度と心を育む。

資質・能力の育成

何ができるようになるか
 ○学校教育の基本

- ①事実等を正確に把握し、他者に的確に分かりやすく伝える。
- ②互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させる。
- ③互いの存在についての理解を深め、尊重する。
- ④感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりする。

何が身についたか
 ○学習評価を通じた学習指導の改善

- ①学んだことを振り返り、できるようになったこと、わかったことが言える。
- ②他者の意見を踏まえて、自分の考えを話すことができる。
- ③自分と違う他者の考えの根拠を考えることができる。
- ④自分の感じたことや思ったことについて表現を工夫して話すことができる。

子どもの実態

- 素直に自分を表現できる。
- 行事に一生懸命取り組む。
- 判断が刹那的になりやすい。
- 自己指導力が低い。
- 家庭環境等の課題を背負っている子どもが少なくない。

子どもの発達をどのように支援するか
 ○配慮を必要とする子どもへの指導

- ・個に応じた対象の提示。(文章、音声、絵等)
- ・ICT、思考ツールの活用。
- ・自信をもって話す、聞く、話し合うことのできる個に応じた支援。
- ・語彙を豊かにする活動の設定。

めざす子どもの姿

- ・自分のよさを見つけられる。
- ・先を見通した判断・言動がとれる。
- ・当たり前のことに対して感謝する人を見つけることができる。
- ・自分で判断し、自己決定し、実践する力をもつ。

何を学ぶか
 ○教育課程の編成

- ①主観にとらわれず、事実等と意見や考えを明確に区別し、自分や相手の目的や意図に照らして、分かりやすく伝えること。
- ②物事の本質を見極め、論理的に思考(批判的思考)すること。
- ③相手の話をしっかり聞き取り、納得したり、合意したり、折り合いをつけたりするなどを、豊かな語彙と表現で的確に反応すること。
- ④感じたことを言葉にしたり、心のこもった言葉で交流したりすること。

どのように学ぶか
 ○教育課程の実施

- ・協和型協同学習の推進。(ペア・グループ活動、「つなぐ」授業の充実)
- ・学年間や教科間のつながりを踏まえた授業の実践。
- ・学校行事・道徳・学級活動・総合的な学習の場での言語活動の充実。

実現するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 授業改善を目的とした校内研修。
- 個々の子どもに適した学びの支援のための情報の収集と共有。
- 子どもの情報交換のための小中の連携体制。
- 学校運営協議会との協働。
- 関係機関・地域の諸団体との連携。

安心・安全を守る

- 「自分の命は自分で守る」指導。
- 関係機関や諸団体と連携した交通安全指導。
- 防災教育の推進、安全点検、環境整備。

開かれた学校作り

- オープンスクールの実施。
- 「学年団だより」等の学校からの情報発信。